

記者発表				
月/日(曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤルイン)	発表者名 (担当者)	その他配布先
10月16日(水) 13:30	県立考古博物館 埋蔵文化財課	079(437)5595	副館長兼総務部長 川由 伸一 (埋蔵文化財課長 鐵 英記)	中播磨 県民センター

前田遺跡^{まえだいせき} (姫路市網干区高田) の発掘調査成果と現地説明会について

内 容

主要地方道太子御津線社会資本整備総合交付金事業に伴って、兵庫県教育委員会は(公財)兵庫県まちづくり技術センターに委託して、前田遺跡の発掘調査を進めています。調査の結果、古墳時代から中世にかけての集落跡が見つかっています。調査成果を広く県民に公開するため、現地説明会を開催します。

【調査成果】

別紙前田遺跡調査成果の概要のとおり

【現地説明会】

日時：令和元年10月20日(日) 10:00～11:30
場所：前田遺跡発掘調査現場(姫路市網干区高田)

〈現地説明会にかかる問い合わせ先〉

前田遺跡発掘調査現場事務所
担当 藤原怜史技術職員、久保弘幸技術専門員
TEL：079-275-1007
(平日 12:10～13:00、17:00～18:00)

〈遺跡の内容にかかる問い合わせ先〉

(公財)兵庫県まちづくり技術センター
埋蔵文化財調査部調査第2課長 篠宮 正
TEL 079-437-5561 (平日 9:00～17:30)
兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財課長 鐵 英記
TEL 079-437-5595 (平日 9:00～17:30)

前田遺跡調査成果の概要

- 1 遺跡名 前田遺跡（まえだいせき）
- 2 遺跡の種類 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 古墳時代～中世
- 4 所在地 姫路市網干区高田
- 5 調査面積 約653㎡
- 6 調査期間 8月9日～11月11日（予定）
- 7 調査原因 主要地方道太子御津線社会資本整備総合交付金事業
- 8 調査主体 兵庫県教育委員会
- 9 調査機関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
藤原怜史技術職員、久保弘幸技術専門員

10 調査の概要

前田遺跡は揖保川左岸に広がる沖積平野に立地しています。

今回で、平成28年度から4ヶ年にわたって実施してきた本事業に伴う前田遺跡の最後の発掘調査となります。今回の現地説明会で、今年の5～6月に実施した調査と現在行っている調査の成果をあわせて公開します。

調査の結果、次のことが明らかとなりました。

《古墳時代前期～中期（約1,700～1,500年前）》

- ① 竪穴住居跡・土坑・溝・柱穴などが見つかりました。
- ② 今年度の調査で、竪穴住居跡が10棟以上見つかり、これまでの調査をあわせると30棟近くになります。これらの住居跡は重なりあって密集していることから、建て替えながら住み続けていた様子がわかります。
- ③ 今回の調査でも、過去の調査で注目を集めた初期須恵器が井戸から出土しています。また、「山陰型こしき甗形土器」など県内でも出土例の少ない土器も出土しました。

《奈良時代（約1,300年前）》

調査区の一部で柱穴群が見つかりました。大型の柱穴は列をなしており、大きな掘立柱建物があったと考えられます。

《中世（約800～700年前）》

- ① 溝・井戸・柱穴・鋤溝が見つかりました。
- ② 溝は前年度の調査区から続くもので、館などの敷地を区切る溝の可能性がります。
- ③ 柱穴群や井戸、鋤溝からは、遺跡に暮らした人々の様子がうかがえます。

11 まとめ

- ① 古墳時代前期から中期にかけて竪穴住居が数多く建てられていたことから、長期間続いた集落であったことがわかりました。日本海沿岸地域をはじめとする他の地域の土器が出土しているほか、朝鮮半島からの影響を受けた初期須恵器が出土しており、他の地域との交流や先進的な技術導入が行われる拠点的な集落であったと考えられます。
- ② 中世には、大型の敷地を区切る溝が設けられていることから、近くに屋敷などがあったと考えられます。溝の外側では、柱穴群や井戸が見つかり、人々の生活の様子がわかります。

前田遺跡発掘調査写真



調査区北部 柱穴群検出状況



コンパス文の初期須恵器が出土した井戸（調査中）



コンパス文・鋸歯文のある初期須恵器